

多機能性新規ベリーの産地化技術の確立と新加工品の開発

1 中核機関・研究総括者

東北大学 金浜 耕基

2 研究期間

2004～2006 年度 (3 年間)

3 研究目的

多機能性新規ベリー・オビルピーハを導入して中山間地等の耕作放棄地での栽培に必要な生産技術を開発し、生産された果実の加工技術を開発し、生鮮果実と加工製品のマーケティングを調査して、生産～加工～販売一貫体系の確立をはかる。

4 研究内容及び実施体制

① 多機能性成分関連遺伝子の解析 (東北大学)

遺伝子解析器機システムを用いて果実の糖代謝関連遺伝子を解析し、根粒菌を用いて空中窒素の固定能を調べる。

② 栽培管理方法の確立 (陸前高田市総合営農指導センター)

適切な施肥方法の開発、挿し木を用いた増殖方法を開発し、効率的な機械収穫方法を開発する。

③ 生産安定化技術の確立 (岩手県農業研究センター)

生理生態解明、整枝・剪定技術等の確立、病虫害の発生実態調査と防除技術を開発する。

④ 果実の多機能性成分の解析 (岩手県工業技術センター)

果実及び加工品中のビタミン類等の解析、種子のオイル利用方法を検討する。

⑤ 果実の生理機能性解析 (岩手県工業技術センター)

新鮮果実及び加工品の生理機能性を測定する。

⑥ 商品開発とマーケティング調査 ((有) 神田葡萄園)

ジュースやジャム等の加工食品を開発し、オイル加工製品の可能性検討、マーケティングの調査を行う。

5 目標とする成果

本研究を実施することによって、中山間地等の耕作放棄地での栽培に必要な多機能性新規ベリー・オビルピーハの生産技術及び果実の加工技術を開発するとともに、生鮮果実と加工製品のマーケティングを調査して、生産～加工～販売一貫体系が確立される。

これにより、中山間地の果樹生産振興に加え、地域にとっての新産業の創出効果が期待され、寒冷地全体に普及することが期待される。